

令和五年度 第五十五回 入学式

式辞

春の温かな日差しが、日増しに山々の緑と三方五湖の水面の輝きを引き立たせ、心弾む季節となりました。本日、ここに、来賓の皆様のご臨席を賜り、福井県立美方高等学校・第五十五回入学式が挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

本日、入学を許可いたしました「152名」の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同皆さんを歓迎いたします。ご家族の皆様におかれましては、ご息のご入学を心よりお慶び申し上げますとともに、これからどうか美方高校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本校は、昭和44年に開学し、若狭町、美浜町をはじめ地域の皆様からの温かなご支援をうけ今年度で創立55年目を迎えます。開学以来、「文武両道」を教育の柱に掲げ、校訓「明」「強」「清」を力強く体現しこの学び舎で育った1万2千名の卒業生が多方面で活躍しています。皆さんもこの長い伝統の担い手として美方高校を前に推し進める力となってください。

さてここで皆さんが周囲の方々から投げかけられる「入学おめでとう」の意味について考えてみましょう。私は、今かけられるおめでとうは仮の祝福の言葉だと考えています。入学に至るまでの背景や思い入れは皆さんそれぞれ違うからです。おめでとうの受け止め方もそれぞれ異なると思います。今から皆さんはこの学び舎で過ごします。楽しいことばかりではありません。挫折や苦難を味わうこともあろうかと思えます。社会に目を向けてみても、経済状況の低迷や国際的な紛争問題、少子高齢化の問題など不安要素が山積しています。

しかし、そういう中でも皆さんが将来、ここを卒業して10年後、20年後ここでもがきながら学んだこと、挑戦した経験を振り返った時、皆さんがここ美方高校で学んで本当によかったと心底思えた時が真の意味での入学おめでとうだと思えるのです。

皆さんこれからの高校生活、結果を早く出そうと慌てないで、しっかりと地に足をつけて、ゆっくと歩みを進めてほしいと願っています。そして生涯にわたる学びの導線と、生涯付き合えるいい仲間との関係を育んでいける、そんな3年間を穏やかに、しかし逞しく過ごしてほしいと思います。

新入生の皆さんの高校生活が、人生において有意義なものになりますことを祈念いたしまして式辞といたします。

令和5年4月7日 福井県立美方高等学校長 北村 徹